

令和5年度 第1回平田地域協議会会議録（要約）

日時	令和5年5月30日（火）午後1時30分～午後3時00分				
場所	ひらたタウンセンター 集会室				
出席委員	15名				
	1号委員	長堀 恵理	田中井広志	佐藤 芳紀	小野寺孝延
		佐藤 恭子	前田 恵次	佐藤 善仁	今井さち子
		丸山 清	枝 春男	加藤佐和子	
	2号委員	石黒 由香	佐藤 正一	須田 祐司	久松 由華
欠席委員	なし				
酒田市出席者	酒田市副市長（委嘱状交付）		安川 智之		
	平田総合支所長		佐藤まゆみ		
	平田総合支所長補佐兼建設係長		佐々木 豪		
	平田総合支所長補佐兼産業係長		進藤 貴		
	平田総合支所長補佐兼地域振興係長		高橋 美津		
	平田総合支所地域振興主査		阿部 光正		
傍聴者	なし				
議事日程	1. 開 会				
	2. あいさつ				
	3. 委員・職員自己紹介				
	4. 地域協議会について				
	5. 会長・副会長の互選				
	6. 会長・副会長あいさつ				
	7. 会議録署名委員の選任				
	8. 報告				
	(1) 令和4年度 市長への報告内容について				
	(2) 令和5年度 平田地域関連予算について				
	9. 協議				
	(1) 令和5年度 平田地域協議会の開催予定について				
	(2) その他				
	10. その他				
	11. 閉 会				

【協議会の概要】

新たな任期の委嘱状を交付し、会長・副会長の互選が行われた。会長に石黒由香委員、副会長に丸山清委員が選出された。

令和4年度市長報告会、令和5年度平田地域関連予算について報告があり、今年度の地域協議会の年間計画について協議した。今年度は4回開催とし、主な内容を地域振興に係るもの及び市長に報告する地域課題について協議することとした。

【会議録（要約）】

1. 開会
 - ▶事務局より開会と委員全員出席の報告
2. あいさつ
 - ▶佐藤支所長あいさつ
3. 委員・職員自己紹介
 - ▶委員15名と事務局5名の自己紹介
4. 地域協議会について
 - ▶高橋支所長補佐が資料にて説明

——安川副市長の到着により、委嘱状交付のため中断——

5. 会長・副会長の互選
 - ▶出席委員の互選により、会長には石黒由香委員、副会長には丸山清委員が選出された。
6. 会長・副会長あいさつ
 - ▶石黒由香会長、丸山清副会長あいさつ
7. 会議録署名委員の選任
 - ▶会議録署名委員は、これまでどおり名簿の順番に指名することとし、長堀恵理委員を指名した。
8. 報告
 - (1) 令和4年度 市長への報告内容について
 - ▶資料の基づき石黒由香会長が説明。佐藤支所長が補足説明

○佐藤正一委員

先ほど副市長から市の予算が厳しいという話があったが、お金が無くてもやれることはあるのではないと思う。石黒会長、丸山副会長はじめ、皆さんがそれぞれご自分の分野で頑張っていてすごいパワーを持っていると感じる。そういったパワーをこの協議会の全委員の皆さんが地区に持ち帰って集約して何かできるはずだと盛り上げていければ、きっといいものができるのではないだろうか。具体的なものは思いつかないが、そう強く感じるので、頑張りましょう。

○佐藤芳紀委員

地域協議会はきめ細やかな行政サービスの提供という目的があるわけだが、イベントしかできないということだから、この地域協議会をもっと大きな枠で考えたらどうか。例えば当地区では結婚せずに子供がいないため、50年後集落は半分以下になると思う。9軒あっても子供が1人しかいないこの状況で、旧平田町なんか3分の1しか無くなってしまおうのではと危惧している。イベントも大切だが、以前の地域協議会の目的から少しずらしてもっと大きい視野で考えたほうが良いのではないか。

○佐藤支所長

地域振興の捉え方の切り口はいっぱいあるのだと思う。今お話があったような福祉的な生活支援や、ここに人口を残していくために企業誘致して働く場をきちんと設ける等、切

り口はいっぱいある。何もイベントで賑やかになることだけが地域振興ではない。だからこそ今、財政からもそこに一発花火みたいなお金をかけて予算を投資というのはどうなのかという宿題を預けられているのだと思う。ただ、そこに何の意味もないのかという私はそうでもないと思っている。子どもたちにとって小さい頃に経験したまちの賑やかさなどの記憶は、地域にまた戻ってくるきっかけや地域を大切にする気持ちにつながるものがあると思う。いろいろな考え方があり、いろいろな切り口がある。本当に必要な地域振興とは何かということ今年をテーマにしながら、協議をしていただきたいと思います。

○石黒由香会長

去年は皆さんの意見を集約した二本柱で話を進めたが、今年度はまた新しい切り口で皆さんの意見を集約してシフトしていったらと思う。

(2) 令和5年度 平田地域関連予算について

▶高橋支所長補佐、佐々木支所長補佐、進藤支所長補佐が資料に基づき説明

○佐藤芳紀委員

予算については地域協議会で予算案を協議しなければならないのか。それとも報告だけなのか。

○佐藤支所長

協議ではない。地域づくり予算、いわゆる支所の地域振興事業予算について委員の皆さんのご意見等を反映できることになっている。今、支所は1課6係であるが、支所の予算がついているのは地域振興係である。タウンセンターと平田総合支所庁舎の維持管理費も支所予算がついているが、それ以外は本庁の所管の予算である。もし皆さんからご協議頂くとすれば、地域振興係の平田地域振興事業の予算について、ご意見を頂きながら予算が組めるということになっている。

○佐藤正一委員

この予算は本庁のほうで決まった予算であり、我々が協議や要望をしたら、来年度に向けての意見があればということか。

○佐藤支所長

そうである。

9. 協議

(1) 令和5年度 平田地域協議会の開催予定について

▶佐藤支所が資料に基づき説明

○小野寺孝延委員

先程の説明に宿題の話があったが、誰が誰に対して出されたのか。

○佐藤支所長

令和5年度予算の内示のときに、財政課から予算を持っている我々に対して3支所に向けてイベントをすることイコール地域振興なのかどうか、イベントが無くても何か他の地域振興策があるのか、どうしてもイベントをやらなくてはいけないのかを考えてほしいという宿題が出された。

○小野寺孝延委員

それは私達も含めてということか。

○佐藤支所長

財政課からの話は事務レベルである。それを私達が受けて、支所の行政職だけで決めるのではなく地域の人達がどのように考えていて、どうしていきたいのかという声を拾い上げる必要があると思っている。その1つが地域協議会の皆さんからいろんな意見を聞きたいということである。

○佐藤正一委員

地域振興係からの報告の中で地域おこし協力隊員が1名予定されているとのことだったが平田・八幡・松山、どの地区に予定しているのか。

○佐藤支所長

ここにあるのは平田の1名である。昨年度まで3年間東陽コミュニティ振興会に1名配置されていたが、3月で卒業された。このため、東陽コミ振より改めて1名配置希望があった。募集はこれからであり、応募もあるかはわからないが、現時点ではそういう予定である。

○佐藤正一委員

この地域おこし協力隊はどこコミュニティ振興会からも必要だから来て欲しいと要望があり、たまたま東陽コミ振からの要望が強かったので、申し込みをするということになったのか。

○佐藤支所長

協力隊が必要だと思っているコミ振は田沢コミ振と東陽コミ振のみである。他の3つのコミ振にいろいろお話しをしても、協力隊から来ていただいて課題解決するようなことは特に無いとのこと、田沢と東陽に必要ということだった。また、田沢には現在集落支援員1名を置いていて協力隊と集落支援員を重複して配置できないため、今年度田沢コミ振に協力隊を置けないという状況である。

○佐藤正一委員

そうであれば、田中井委員にお尋ねしたいが、今までいらした方は3年経ったので帰りたいということになってしまったのか。一般的にはそうなのかもしれないが、中には住み着いて一緒に生活している事例も全国的には見られるようだ。東陽コミ振ではどんな活躍をしていただきたいという思いがあって申し込まれたのか。

○田中井広志委員

地域おこし協力隊の受け入れについては、先日のコミ振総会で決定された事項である。前任の方は体調を崩してなかなか活動できない状況にあった。そういったなかでも今回、協力隊の受け入れの話になったときにもう一度お願いしたいということだった。東陽地区で何ができるのか我々と一緒に模索したいと思っている。ただ、募集をしてもすぐ応募があるのかはわからない。私は今、余目で仕事をしているが、余目のほうでは地域おこし協力隊が活発に活動している。そういったことも期待しながら募集したいと思う。

○石黒由香会長

行政の予算というのは、「これだけお金をやるので何かやれ」ということになりがちである。私も中央の会議の場でお金の使い方や回し方を聞かされるが、「これをあげるのでやれ」みたいな感じだった。でも予算付けが無くなったことをきっかけに、お金が無くても「これをやりたい、あれをやりたい」という私たちの思いが逆に流れるイベントができる気がして、私は逆に良かったのかなと思う。「使わなかったら予算をやらないぞ」というような感じで今まで回してきてしまっていたのを私はずっと不満に思い、腑に落ちなかった。でも欲しい所には回せるような予算であってほしいと思う。本当に欲しいものであって、「これがしたいからください」というお金であり、「ありがとう、助かる」という、「ありがとう」という言葉が行きかうようなお金の使い方をぜひ欲しい。「これを建てたからここに人を集めろ」というのではなく、お金が無いなりに本当にこれだけは欲しいという予算であり、そういった使い方をしてほしいと思う。無いなりにこの平田で今年度からも楽しいことができると私は思っているので、皆さんからもぜひお知恵をお借りしたい。

○小野寺孝延委員

先程の佐藤芳紀委員のお話しにあったように少子高齢化を危惧している。現在、酒田市にたばこ税の収入はどのくらいあるのか知りたい。以前、近所の店に前年度の税込額が貼り出してあった。平成13年か平成17年か定かでないが、13億7千万円程のたばこ税が入っているとのことだった。酒田市にとっても税収は大切なものであり、この先人口が減少していけば当然税収も減ると思う。酒田市のほうでは変わった税収や、こうしたらお金になる等何か検討やアイデアはあるものか。

○佐藤支所長

税の担当部署でもないので、たばこ税の数字を持ち合わせておらず詳しくない。今はふるさと納税を外に向けて地域のいろいろな商品と交換しながらすすめているところであるし、ある程度酒田市は結構良い税収源になっているはずである。返礼品の米は大人気と聞いている。

○小野寺孝延委員

私も喫煙者だが、以前、庁舎が新しくなった頃、喫煙室が離れた場所にあった。そこにたばこを吸いに行こうと思ったらせんべい屋さんが入っていた。喫煙室を作るにも結構お金がかかったと思う。その設備を撤去するとしたら撤去費用や処分費用も掛かるはず。何が何でも節税をしてくれとは言わないし使うところには使うべきと思う。お金が無くてもできることはたくさんあると思う。

○佐藤芳紀委員

地域協議会から「このくらいの予算が必要である」と、「これだけつけてくれ」と要望書は出しているのか。

○石黒由香会

特に予算の要望はしていない。

○佐藤芳紀委員

言われたことしかないのであれば、「これだけ必要だ」という要望書を出した方がいいのではないか。「芸術文化にこれだけ必要だ」とか要望したほうが良いのではないか。

○枝春男委員

私が思うにはこれまでどの位の予算でやってきたかを計上して予算要求しており、イベントもすべてカットということを財政から言われてこういう事になったのだと思うが、その傾向は去年からあって酒田市内のほうは既に始まっていた。それでも平田の方がよくついていたが、それが今年になってバタバタと削られた。いきなり削られたので、要望者を出したとしても今年の場合はたぶん却下されると思う。先程の副市長の話では、だんだんピークを越えてこれから緩やかになると、ただ、今年来年は非常にきついのことだった。私が思うには商業高校跡地などはこれから検討していくとのことだし、八幡体育館等いろんな箱ものが今度またできてくるのであれば、また同じような感じになるのではないかと思う。昨年度の市長報告会の席上で会長・副会長がいろいろと言ったが「検討します」、「教育委員会に言っておきます」、そういうあいまいな返事しかできない。はっきりと「じゃあやりましょう」ということはなかったように思う。今年仮に副市長が市長になった場合、「皆さんと一緒にやりましょう」と言っていたので、その辺かなと私は見ている。どんなふうに進んでいくのか。「これだけかかる」と言っていくら要望を出しても今までのような感じであれば、財政から却下される。最初に佐藤正一委員がお話しした地域協議会とは何なのかという所にも行きついてしまうと私は思っている。

○石黒由香会長

実際、近々では十二滝が土砂崩れで行けなくなり、そうしているうちにも橋が腐ってしまい危険な状態であるということで、直接市長ミーティングで提案して要望し、1千万円も掛からない程度の予算を付けて撤去してもらった。あとは遊歩道も徐々に直して頂いたり、生涯学習センターの台所やコミ振の事務室あたりの改修もお願いしたら10年くらいはかかったが直して頂いたという経緯がある。市長から実際に現場を見に来てもらうため、十二滝にも足を運んでいただいた。

○枝春男委員

先程副市長にイベントにいくら予算計上しているのか尋ねたのはそういうことだった。平田で例えれば田沢地区の里山Dayも始めたばかりの2年目で予算がつかなかった。やっと始めて軌道にのっていきかと思えば予算査定ゼロ。コミ振単独でやれば別だが、酒田市からの補助金が無ければあとはやめましょうとなってしまう。

○田中井広志委員

地域協議会というのは予算をもってやりましょうという会ではない。我々が見てこれは必要だとかこれはやらないとかみんな協議して市長のほうに報告するという会なので、別に予

算云々ということではないのではないか。

○小野寺孝延委員

お金がすべてではないという事は重々承知している。ここの予算はカットされたがそこには1イベントに約1千万円前後ついた。端から見れば見限られているのではないかという感情が出てくる。話し合っただけ報告しても結果を伴わないというのであれば、集まる意味が無いのではないか。酒田市はふるさと納税がかなり見込まれているとのことだったが、それだけでは済まないはずである。それでも必要な予算がカットされたり、要求してから10年もかかったりする。10年間放置されたように思う。自分が住んでいる飛鳥でも抱えている問題は沢山ある。民間であればお金を儲けようという事もできるのかもしれないが、市役所は収収で儲ける訳にもいかない。でも、これだったら収入源になるのではないかということをご提案してもいいのではないかと思います。

○佐藤正一委員

イベントの話しになるのか、それとも交流人口を増加させるというのが地域活性化の一つだという考えに立った時、トレイルランというのがじわじわとはやりつつあるとのことだった。決して高い山ではなくて、その辺の山道みたいな所をランニングして遊ぶというようなことなのだそうだ。実際、先日の土曜日にアイアイのあたりに行ったらそういう人たちが十数人来ていて山を駆け上がっていた。酒田からも近いのでいろいろな所を走り巡ってくれて、アイアイのお風呂に入ったり食事をしてもらったりというような交流人口のあり方があってもいいんじゃないか、というのを提案する人がいた。レクリエーションとしてこういったものもあるのだと思い、初めて見学させてもらった。平田はそれに適している所が何か所かあるとその人達が話していた。担当の集落の皆さんからのご理解を得て協力をいただきながらやったら、そんなにお金もかからずに気持ちよくできるのではないかと思ったので、次回皆さんから資料を見て頂きたい。

(2) その他

▶特になし

10. その他

▶車賃の支払いの事務連絡

11. 閉 会

▶丸山清副会長閉会